

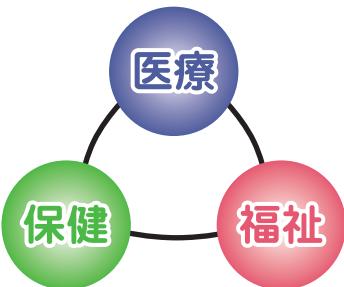
# ふれあい 第51号



医療法人 社団 創健会

広報誌

発行:2024年1月

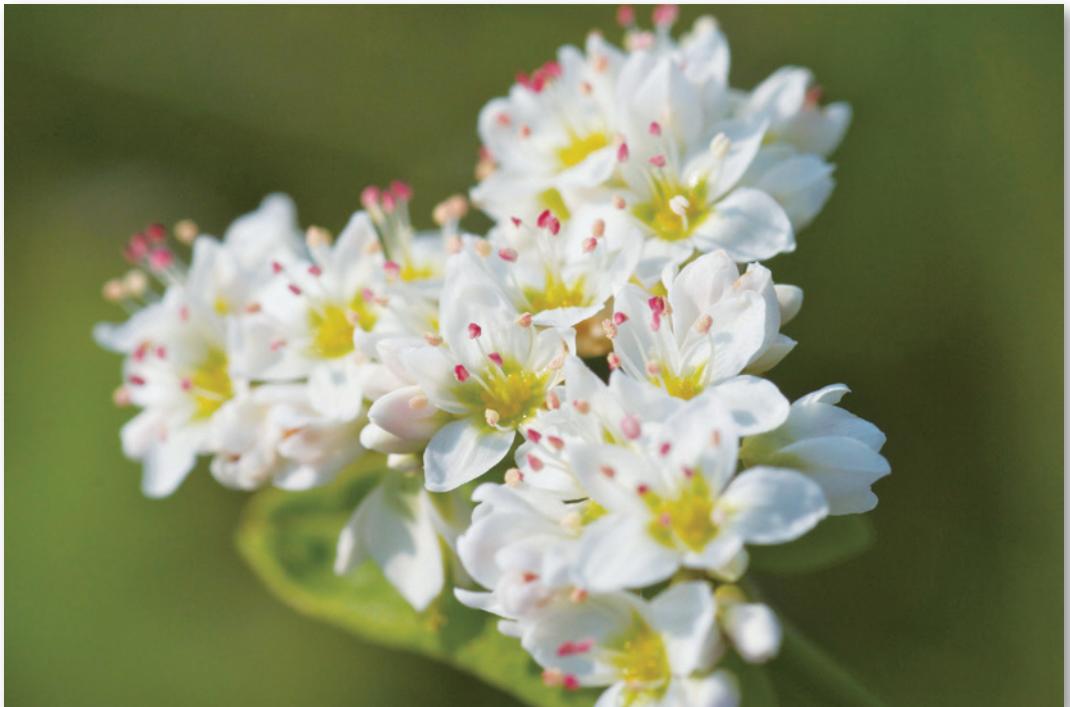


## 基本理念

「ふれあいと健康をもとめて」

## 基本方針

1. こころとこころのふれあう保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供します
2. それぞれのニーズに応じた健康の保持増進に貢献します
3. 地域に開かれた信頼される施設づくりに努めます



ソバの花:花言葉は「あなたを救う」

日本医療機能評価機構 一般病院1  
機能種別版評価項目3rdG:(Ver2.0)  
認定の医療機関です



## 目 次

・薬事輸血委員会・後発医薬品検討委員会	P2
・第30回 ふれあいコンサート開催報告	P3
・無料出張講座について	P4
・人間ドック健診施設機能評価を受審して	P4
・認定看護師認定更新を終えて	P5
・職域・地域での健康づくり	P5
・地域連携課だより	P6
・あけぼの通信	P6
・介護医療院宇賀の里つばさだより『ほのぼの』	P7
・栄養だより	P8
・写真部よりこんにちは!	P8

# 薬事輸血委員会・後発医薬品検討委員会

薬事輸血委員会では情報の共有化と知識の啓発により医療品や血液製剤の適正な使用の推進を図ること、後発医薬品検討委員会では積極的な後発医薬品の使用を推進することを目的に活動しています。

病院で医療を行う上で、医薬品は必要不可欠です。病気を治療するための医薬品はもちろん、検査薬としての医薬品もあります。剤型も内服薬、注射薬、外用薬とあり、以前に比べ使用方法や保管方法が複雑な薬が増えました。病院でこれらの医薬品を適正に使用するためには、院内で使用する品目の検討や、情報の収集、院内ルールの制定が必要です。医療用医薬品として発売されている医薬品は約15000品目ありますが、院内採用医薬品は僅か500種余りです。採用医薬品は薬剤師のみ、また医師のみで決めるのではなく、処方する医師・歯科医師、調剤・管理する薬剤師、患者様へ投与する看護師、保険請求に係る事務員、検査に使用する薬剤であれば臨床検査技師や放射線技師と多職種で検討します。その場が委員会です。

昨今、医薬品の供給不足はメディア等でも取り上げられ、ご存じの方も多いと思います。実際、服用している薬が入手できないと保険薬局から説明を受けた方もいらっしゃるでしょう。病院内でも不足する医薬品を最小化し、入院患者様の治療継続に支障をきたさぬよう、採用医薬品の選定には今まで以上に四苦八苦しております。特に後発医薬品の選定は流通の安定性を重視する状況になっています。

医薬品による副作用や予防接種による副反応の発生状況の把握も重要な委員会業務の一つです。例えば新型コロナワクチン接種時には副反応の発生状況を確認し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA; Pharmaceuticals and Medical Devices Agency)や製薬会社、行政への報告業務を行っています。このような活動が医薬品やワクチンの安全使用に結びつきます。

輸血に関しては使用患者様の把握と製剤の使用数・廃棄数を報告し、適正に使用されているか確認します。発注から患者様へ投与されるまでの管理や検査手順の確認、投与後の副反応発生状況の把握、血液センターとの連携や遡及調査の情報共有が重要な活動です。

薬事輸血委員会・後発医薬品検討委員会 委員長 湯原 友美(薬剤師)  
副委員長 梅木佳代子(臨床検査技師)

# 第30回 ふれあいコンサート開催報告

松江記念病院で平成6年より毎年12月にお届けしている“ふれあいコンサート”、今回で30回になりました。新型コロナウイルス等感染症予防対策のため、会場へは施設内でご療養中の方のみのご案内といたしましたが、和やかな雰囲気の中、理事長内藤篤からの挨拶で幕を開けました。

プログラム1番はG-G-ブラザーズ様の演奏です。お兄様の仲村元一様は4年ぶりのご出演でしたが、仲村様の沖縄三線と弟様の川上勝美様のギターで懐かしのメロディーや沖縄民謡を披露してくださいました。



プログラム3番は創健会の音楽部おんぼらと(ONBORAT)です。結成7年目となり、様々なレパートリーがある中、今年は「時の流れに身をかませ」「北国の春」の昭和の名曲を演奏してくれました。観客の皆様からは普段と違うおそろいのブルーのTシャツ姿の職員に歓声があがり、大きな拍手もいただきました。



皆様からの歓声で賑やかに盛り上がりました。

次回は地域の皆様にもご来場をいただき、和やかな一時と一緒に楽しんでいただけることを願っております。



プログラム2番は乃木コーラス様です。昨年は事前に撮影したビデオでのご出演でしたが、今年は4年ぶりに会場にお越しくださいました。曲は薄紫の山脈(島根県民の歌)」「ジングルベル」等を選んでいただき、テンポ良く観客の皆様も一緒に歌うことができました。田平英嗣先生による「ピアノ独奏 バッハ作曲 平均律第1番ハ長調」の独奏もご披露ください皆様もうつとりと聴き入っていらっしゃいました。



コンサートのトリを飾るのは職員有志バンドMEMORIAL BLUE。今年のテーマは「愛」。朝の連続テレビ小説『らんまん』の主題歌「愛の花」やサンオールスターズの「いとしのエリー」など、ゲストの田邊より子様のヴァイオリンの澄んだ音色も加わり、愛を込めた演奏をお届けしました。途中、“あい”ではありませんが、2023年ならではの“A.R.E”にまつわる応援歌のサプライズもあり、会場は参加者の

ふれあいコンサート実行委員長 大越 美香

# 無料出張講座について

近年、健康寿命・介護予防の3大阻害因子として、「認知症」「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」が挙げられています。こういった背景に伴い、転倒予防や認知症予防について医師、理学療法士等による無料出張講座を開催しました。

## 過去に実施した講座内容の一例

- 「高齢者の身体特性について」「転倒予防と腰痛予防について」
- 「嚥下障害と嚥下体操について」「認知症とその接し方について」
- 「認知症予防について」「フレイルチェックと予防について」

上記のテーマの他にも、ご希望のテーマに沿って対応できるようご相談を承ります。

時間は概ね30分～1時間程度です。地域に開かれた信頼される施設を目指し、「出張講座」を通じて、地域の皆さまの医療や介護、健康に対する意識や知識向上のためのお手伝いができれば幸いです。公民館や地域で活動なさっている団体の皆さまからのご要望がございましたら、お気軽に担当者までご連絡ください。

リハビリテーション部 若林 祐太



お問い合わせ先:担当者 リハビリテーション部(若林) 電話番号:0852-29-0168(直通)

## 人間ドック健診施設機能評価を受審して

松江記念病院では昭和61年開院当初より、事業所の健康診断、人間ドックをおこなってきました。働く世代の方々、地域の皆様により質の高い、安全で安心な人間ドック健診を提供するため、私たちに出来ることは何かを常に考えて日々様々な職種が予防医療に従事しています。

2004年、日本人間ドック学会が健診機関の品質を保持し、最新の予防医療のニーズに応えアップデートすることを目的として、機能評価事業を開始しました。当院は2007年、島根県では第1号の認定を受け、2023年5月にはバージョン4.0で審査を受け認定を更新しました。受審までは書類や体制整備等現場の医療職、事務職がチームで多くのハードルを乗り越えて準備を進め苦労もありましたが、受審時にはサーバイヤーより細かい確認とともに、お褒めの言葉もいただき、また最新の情報をもとにアドバイスも受け、今後の一層のアップデートにつながるよい機会となりました。

皆様にさらに安心、満足していただける施設を目指してこれからも日々バージョンアップしていきたいと思います。



予防医療部 内藤 潤美

# 認定看護師認定更新を終えて



訪問看護ステーションあゆみ  
緩和ケア認定看護師  
松浦 友美

2018年より緩和ケア認定看護師として活動を行ってきました。今年、5年の活動期間が経過し、初めての認定看護師資格の認定更新を終えることができました。緩和ケア認定看護師には生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルな苦痛を緩和しQOL（クオリティー・オブ・ライフ=生活の質）を高める役割が求められています。

現在は訪問看護ステーションあゆみで訪問看護師として勤務しています。訪問看護は療養を必要とする方の自宅を訪問し、看護やケア、リハビリテーションを提供します。私たちの訪問先には人生の最終段階を迎える方や緩和ケアを必要としている方もたくさんいらっしゃいます。その方が希望する場所で大切な人や大切にしているものと一緒に残された時間をその人らしく過ごせるように、緩和ケア認定看護師としてこれからもよりいっそう努力していきたいと思います。

## 職域・地域での健康づくり

### 松江記念病院 健康支援センター

検査後は専門医の結果説明を聞くことができます。待ち時間には模擬乳房を用いて、しこりを触って体験してもらいました。自宅でのセルフチェックの方法についても相談できます。



### 今年度もジャパンマンモグラフィーサンデーを実施しました



全国的な取り組みであるジャパンマンモグラフィーサンデーに賛同し、今年度も10月の第3日曜日に開催しました。当日は健康支援センターに30代～70代の29名が来院されました。就業中の方がほとんどで、『日曜日に受けられるから』という声が多く、また市のがん検診として検診をお受けになった方も多数ありました。

保健師、女性技師による問診や検査の中でお一人お一人とゆっくりお話しすることを通して、自己チェック方法、乳がんに関する情報や知識を得る機会を体感していただきました。これから多くの方に乳がん検診を快適に受けていただけるよう、スタッフ一同最新の備えをして皆様をお待ちしています。

保健指導課 村松 渚

# 地域連携課だより

医療法人 社団 創健会 地域連携課  
担当 経種 あかり(松江記念病院内)  
TEL 0852-29-0166 FAX 0852-27-8435

## 多職種連携会議について

当法人では「在宅医療連携推進のための多職種連携会議」として、地域の医療機関・介護事業所・行政の方々にご参加をいただき、医療・介護に関わる課題について話し合う会を定期的に開催しています。

令和5年11月17日に今年度2回目となる当会議を「高齢者虐待」をテーマに開催しました。当院の関わった事例を情報提供し、その後グループワークを行いました。グループワークでは在宅や施設で介入した虐待ケースや課題について共有しました。

虐待を受けている方はもちろんのこと、行っている側もストレスや孤立感からつらさを感じていると思います。グループワークではそれぞれの思いに寄り添いながら状況が悪化しないよう多職種で連携し支えているケースを知ることができました。

地域包括支援センターからはいつもと違う等些細なことでも気付いた時には気軽に相談してほしいとの話があり、相談・通報から虐待認定を行うまでの流れを共有しました。

当法人では、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう、今後も地域の課題について理解を深める会議を提供していきたいと思います。

## あけぼの通信

### ~生け花サークル~

毎月1回、花芸安達流の真田登茂子先生をお招きして、華道サークルを開催しています。

普段は車椅子での姿勢が傾きやすい方もシャキッと姿勢を整え、指先に力が入りにくい方も花バサミを上手に使いこなして花に向かわれます。

生けることも良し、以前の楽しみが再び味わえることも良し、花の香りを感じられるのも良しと、皆様それぞれの関わり方で取り組んでいらっしゃいます。

ナーシングセンターあけぼの リハビリテーション部 布廣 朋子



## 介護医療院 宇賀の里つばさだより



# ほのぼの

大寒の候になるにつれて寒さも肌身に凍まるようになって参りました。風に舞う雪を見ると風情を感じる一方で、気温以上に寒さを感じてしまいます。コートにマフラー、手袋と寒さに耐えながら暖かくうららかな春の訪れを恋い焦がれずにはいられません。

昨年は敬老会として職員による銭太鼓を披露しました。職員も利用者様に楽しんで頂けるように繰り返し練習し、緊張のなか本番当日を迎えるました。「365歩のマーチ」の演奏が始まると曲に合わせて利用者様から手拍子があり、終了直後には温かい拍手とアンコールのリクエストまで頂き、皆様が大変喜んでくださったと実感しました。



レクリエーションではコロナウィルス感染症に留意しながら、利用者様同士の距離を十分に保ち、個人で行うレクリエーションから複数人で行うレクリエーションまで担当者が考えて計画しています。11月には寒さも厳しくなってきていたことから、寒さなんかに負けるなと言わんばかりに、しっかりと身体を動かせる風船バレーを実施しました。最初は皆慣れないながらも、力強く風船を打ち返し、時には足を使っ

て拾おうとされる場面も見られ、白熱するラリーとなっていました。途中からは風船を増やすことでより一層力が入り寒さを感じさせないほどの気迫を見せてくださいました。



また恒例となった季節毎の貼り絵は、秋の紅葉と松江城の堀川遊覧船を思わせる構図で作成しました。川のちぎり絵から始まり、紅葉の貼り付けなど利用者様同士が楽しみながら行う事が出来ました。紙をちぎる動作やのり付けを行い貼り付ける動作など、手指や上肢の運動となっていたと感じました。季節感を施設内に居ながらにして感じて頂ける工夫を今後も継続していきたいと思います。



介護医療院宇賀の里つばさでは、利用者様に楽しんで頂けるようなレクリエーションや行事の企画に取り組んでおります。日々の生活の中でより多くの笑顔が生まれるように取り組んで参ります。

介護医療院 宇賀の里つばさ 看護介護部 空先 好範



# 栄養だより



冬の訪れを一段と身にしみて感じる季節となりました。

今回は1~3月が旬で、炒め物、あんかけ、スープ、鍋物など幅広く活用できる青梗菜を使ったレシピをご紹介します。

## 鶏肉と青梗菜のミルク煮

野菜ゴロゴロ♪



※写真はイメージです

★材料(2人分)★

●鶏むね肉	80g	●塩	0.5g	A
●青梗菜	60g	●こしょう	少々	
●玉ねぎ	50g	●油	小さじ1	B
●人参	40g	●コンソメ	4g	
		●水	100ml	B
		●牛乳	150ml	

★作り方★

- ① 鶏むね肉、青梗菜、人参は乱切り、玉ねぎは薄切りにし、鶏むね肉にAを振る。
- ② 鍋に油を入れて熱し、鶏むね肉を焼き色が付くまで焼く。
- ③ 青梗菜、玉ねぎ、人参、Bを加えて弱火で5分程度煮る。
- ④ 牛乳を加え、弱火で3分程度煮込み、器に盛りつけ完成。

管理栄養士 木原 直樹



## 「写真部よりこんにちは!」



真冬の果実 R5年1月撮影

豪雪の日、雪山へ登山してきました。雪をラッセルしながら進むと、日光に照らされた銀世界と、輝くように浮かび上がる黄色い果実の共演が目を引きました。



## 季節の風景



中海に浮かぶ満月 R5年2月撮影

中海のほとりをドライブしていると、大根島の向こうから満月が昇ってきました。風の中海にシャイニングロードが浮かび上りました。

R5年2月撮影

弓ヶ浜からの大山

鳥取県西部には境港から米子市まで20kmにも渡る広大な弓ヶ浜が広がっています。公園から浜に出てみると、海だけでなく、朝日や冠雪した大山など、四季を通して自然を楽しむことができます。

写真部 部長 坪倉 誠

編集後記

最近よくZ世代などと言う言葉を耳にします。Z世代は1995年～2021年ごろまでに生まれた方を呼ぶそうです。○○世代という呼称は団塊の世代から始まりZ世代まで9つあります。Z世代の特徴を理解することでマーケティングやビジネスで役立てられているそうです。

Z世代の次は何世代と呼ぶのか大興味があります。時代の流れや変化についていけないバブル世代の私ですが今年もよろしくお願いします。

広報委員長 戸川 幸輝

編集・発行

松江記念病院 広報委員会

連絡先: 〒690-0015 松江市上乃木3-4-1

電話: 0852-27-8111(代)

ファックス: 0852-27-8119

松江記念病院／松江記念病院内 健康支援センター

介護医療院 宇賀の里つばさ

介護老人保健施設 ナーシングセンターあけぼの

訪問看護ステーション あゆみ

居宅介護支援事業所 かけはし

